

「弘済会そくほう」は、学校担当がお届けしました。

教職員・弘済会会員の皆様

弘済会そくほう



平成29年12月号

公益財団法人
日本教育公務員弘済会
岐阜支部

記念品等 お届けしました!

(公財)日教弘岐阜支部・(株)岐阜教弘では

この11月に記念品等を該当の皆様にお届けしました。

TPライフ補助 983件 図書カードを贈呈
今年度20・30・40・50歳・還暦・古希・喜寿・傘寿になられる11月1日現在会員



継続会員記念品 1,114件 ギフトカードを贈呈
会員を「5・10・15・20・25年」継続されている会員



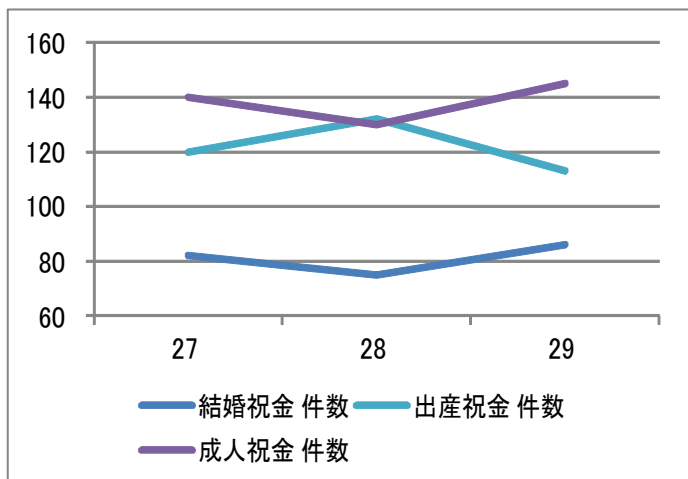
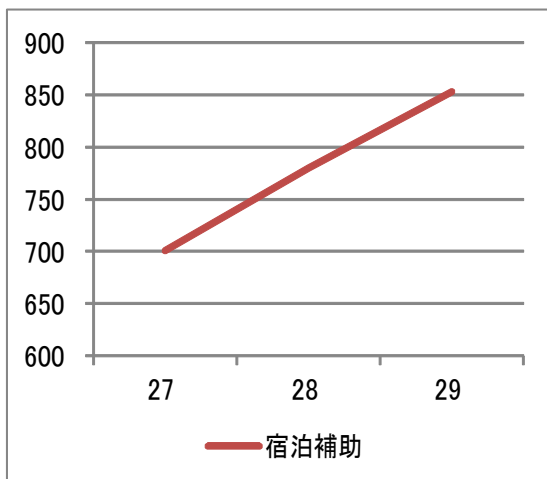
退職継続記念品 280件 血圧計を贈呈
55歳以上で退職後も教弘保険を継続されている方

福祉事業(9月末)申請状況

教弘保険に加入しておられる教弘会員の皆様には

様々な福祉事業をご利用いただくことができます。

- 宿泊補助 弘済会指定施設(県内17 全国150以上)での宿泊1泊につき2千円を補助(年度内6泊まで 配偶者・親子も対象)
 - 結婚祝金 会員の結婚にお祝い金(1万円)
 - 出産祝金 会員の子の誕生にお祝い金(5千円)
 - 成人祝金 会員及び会員の子の成人にお祝い金(5千円)
 - 入学祝品 会員の子の小・中学校への入学にお祝い品(図書カード) など
- (加入口数により対象とならない場合があります。詳しくは弘済会岐阜支部HPや「ぎふ弘済会事業のご案内」をご覧ください。



共済事業(提携保険事業) 提携保険会社: ジブラルタ生命保険(株) 各営業所電話番号
 岐阜1・2 (058-267-6006) 大垣 (0584-83-4500) 関 (0575-22-3793)
 美濃加茂 (0574-25-3658) 多治見 (0572-21-3732) 中津川 (0573-65-3517) 高山 (0577-32-1623)



「キョウサイカイ」はどこにありますか。「ゴジョカイ」とは違うのですか。

「公益財団法人日本教育公務員」は、略して「弘済会」と呼ばれています。先生方のための県内の福利構成団体は県内に6つありますが、一部団体の名称が似ているためか、或いは「教育」が入ることから、当会のことを「キョウサイカイ」「ゴジョカイ」と呼ばれる方が時々あります。「キョウサイカイ」と呼ばれた時には、「教済会」「共済会」「恐妻会」等、色々な漢字が思い浮かびます。

また、弘済会の事務所は「グランヴェール岐山」や「岐阜県校長会館」、或いは「県庁」の中にある」と思っておられる方もありますが、実際には、岐阜市茜部に事務所があります。

教弘保険に無料で付加されている「リビングニーズ特約」って何ですか。加入時に説明を受けたのですが、忘れてしまいました。

「リビングニーズ」特約とは、「余命6か月以内と診断された場合に、生存中に保険金を受け取ることができる特約のこと」です。受け取った保険金は、ご自身の治療に使うことも自分らしく生きるために使うこともできます。

教弘保険に関するご質問等があれば、気軽に学校担当にお尋ねください。



弘済会の猪の独り言(12)

この十月、「中学生等の自殺」を報ずるニュースが幾つか流れた。物事には「真実」と「事実」があり、報道内容からだけでは軽々しく論ずることはできないと思ってるが、こうした報道を耳にする度に、かつての私の指導はどうであったのかと自らの心に問いかけている。

二十六歳の時のことだ。中二の担任として学級経営に苦しんでいた私に、先輩の先生が「あなたは間違ったことに対して真剣に叱ってくれると、去年担任した生徒の親さんが喜んでおられた。俺も頑張らないといかんわ」と励ましてくださった。それでも学級に改善の光は差し込んで来なかった。私を避ける女子生徒の指導にどう対処してよいものか全く分からなかった。数名の男子生徒の勝手な振る舞いに取っ組み合いの喧嘩をしなければならぬこともあった。確かに六月頃までは体を張ってそうした生徒と向き合っては来たが、いつの間にか「私自身のあきらめの気持ち」と「彼らへの見切りの気持ち」が芽生えていたことは否定できなかった。生徒の身勝手な行為に対してまともにもぶつかることをしなくなったのだ。こうした担任の微妙な変化を彼らは見逃さなかった。学級内での「いじめ」が始まっていた。十月半ばの給食後、A男(十一月号で紹介した「ナカモトさんが行く」と言った生徒)が、隣に座っている班長のB子に食器の後片付けを押しつけていることに気付いた。注意して見ると、A男は自分の好きなものをB子からもらい(取り上げ?)、嫌いなものは彼女に押しつけることもあった。その場での指導が大切なことは分かっていたが、「くんなこと知らん。関係ないげ」と逃げられると同時に、B子自身を窮地に陥れてしまいかもしれないと思いつつ、放課後、まずB子を教科の準備室に呼び、「最近、辛いことはないか?」と声をかけた。突然、彼女はボロボロと涙を流し始めた。持っていた彼女のハンカチも、途中で私が渡したハンカチも涙でいっぱいになったが、彼女の涙は止まらなかった。一時間以上も泣き続けたであろうか、私は一言も告げなかった。「辛かったな。それを知らずにいて済まなかった。今日は一緒に帰ろう」と。彼女を家まで送り届け、母親に指導の至らなさを詫言した。母親は「家では普段どおり明るくしていたので全く気付きませんでした。これからもよろしくお願いします」と言ってくれました。

十年後、B子は、未熟な指導しかできなかった私であつたにも関わらず、私を結婚式に招いてくれた。彼女の輝く笑顔を見ながら、「毅然とした教師の生き方を失っていた自分だったこと」を激しく悔いていた。

